

坂本城を考える会

ニュース

坂本城を考える会発行
発行責任者 天田省三
大津市下阪本5丁目10-6

明智光秀を歩く地図完成と 三回のガイド養成講座 完了しガイド募集

12月4日/13:30~/下阪本市民センター ボランティアガイド結成式



学習会で講演中の吉水眞彦
大津市埋蔵文化財調査センター所長

坂本城を
開いている、明智光秀の観
考える会で
光チラシの完成と、それ
は、大津市
伴うボランティアガイドの
の支援を受
養成講座、計三回を終了し、
引続きボランティアガイ

ドを募集し、いよいよ十二
月四日にボランティアガイ
ド結成式を行います。どな
たでも参加できます。



会の前進を 願つて 食 天田省三

この度、会報11号を發
行することとなり、この上
なき慶賀です。
去る四月の総会以降今日
まで、いくつもの行事を實
施することが出来、感慨無
量です。
思い返せば、総会前の四
月十日、私は予想だにしな
い不慮の事故で、大津日赤
病院へ入院する破目となり、
坂本城を考える会の活動や
私の人生そのものが総て終
わり・・・かと案じ苦惱す

下阪本文化祭に参加

坂本城を考える会では、10月30・31
日に開催された下阪本学区文化祭に参加し、
市民に会の活動をアピールしました。



る毎日でした。
お蔭様で総会も定例役員
会等も、役員の方がしつか
りと取り組んでいただき、
着実に実行し継続してい
だきました。
私の身体も今日では、杖
を持たずに歩行が出来るま
でに快復しました。十月二
十七日の研修旅行には、岐
阜県可児市へ会員仲間と一
日、誠に有意義な、また楽
しい旅行となり、またとな
い幸福感を味わいました。
今年が会が設立して四年、
念頭の大津市パワーアップ

事業の認可を得る事となり、
「明智光秀を歩く」地図を
作成しました。
現在、市内支所・京阪沿
線・雄琴温泉等に配布され
つつあります。この機会に
ボランティアガイドの養成
を目的に、学習会を企画し
実施しました。マスコミ2
社から取材を受け、新聞に
も掲載していただきました。
あちこちから問い合わせも
あり、徐々に浸透している
ことを実感しております。
今後更にも前進したいと願っ
ている昨今です。

光秀の故郷 美濃国 明智莊を訪ねて

大津市 並木 益雄

今回で2回目となった「坂本城を考える会」のバスツアーが去る10月27日に行われた。心配していた夜来の雨もすっかり晴れわたり、絶好の行楽日和となり、我々一行を祝福するかのようであった。

定刻の8時30分、比叡山坂本駅を出発したバスは、一路明智の里を目指して美濃路を走ったのである。



目的の可児市には正午前に到着、まずは城山の北麗にある明智一族の供養寺である青雲山天龍寺を訪問、山門をくぐった一同は本堂に上がり、日本一大きいと言われる黒漆塗りの位牌に深々と頭をたれ、お参りをしたのであった。

境内の一隅には光秀以前の菩提の墓が4基ひっそりと祀られており、

思いのほか小さいのに痛ましい思いで一杯になった。光秀の亡くなった旧暦6月に光秀公法要が例年、盛大に行われるとのことである。山門を辞して柿のたわわに実る山村の風景を楽しみながら、

しばらく進むとやがて明智城跡公園の看板が目についた。

この城は康永元年（1342年）四月、明智次郎長山下野守兼頼により築城され、弘治2年（1556年）4月の斎藤道三と義龍の戦いの後、義龍によつて滅ぼされ、築城以来二百十余年で落城の憂き目を見たのである。

土岐明智氏の本拠明智の庄はこの山城一帯で、典型的な中世城郭であった。昭和48年の調査で、本丸跡の塚から鎧の破片や人骨が出土、更には搦手跡付近の急坂からは落城の際に戦死した明智一族郎党を弔うために作られたとされる「六親春属幽魂」と刻まれた供養塔が掘り出され、今もそこに祀られている。

現在は北麗の大手口から城址散策道が整備されていて、あえぎながら本丸跡へと進むうち、数多くの木の実が落ちてくるのに気付いた。また時折山風に煽られて、木の実が雨の様にかす

かな音を立てながら降って来た。

標高178米の本丸跡には「明智城址碑」が建てられ、ひっそりと時の流れにおかれていますのみで、当時を偲ぶものもなかった。

一行が揃ったところで西谷氏に記念写真を撮っていただき、名残りを惜しみながら山を降った。長年の夢が叶い明智の里を訪ねることが出来、この目でその城跡を確かめることが出来たことは何よりの喜びである。

何時も折にふれ思う事だが歴史に「若しか」は禁句とされているが、「若しかして光秀が山崎の合戦で秀吉に勝利を収めて天下を取ったとしたら・・・」或いは「本能寺で信長を打ち損じたとしたら・・・」その後



の日本史はどの様になっていたのかと思うのである。その思いは秋の夜長に果てしなく続くのであった。

城跡へあへぐ山道
木の実踏む
石碑の寂びし城跡
木の実雨

益雄